

平成 26 年度第 1 回江別市地域公共交通会議開催結果（要旨）

日 時 平成 26 年 10 月 15 日（水）10 時 00 分～11 時 32 分

場 所 江別市役所本庁舎 2 階西棟会議室

出席者 高野会長、高橋委員、井筒委員、下段委員、樋口委員
※北海道中央バス(株)より四宮委員の代理として宮前札幌事業部営業係長が出席

事務局 山田企画政策部長、米倉企画政策部次長、山岸政策推進課参事、佐藤都市計画課長、長谷川政策推進課主任

その他 一般社団法人北海道開発技術センター吉田研究員が出席

- 次 第
- 1 開 会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 挨拶
 - 4 委員紹介
 - 5 会長の選出
 - 6 趣旨説明
 - 7 協議事項
 - (1) バス交通に関する社会実験調査について
 - (2) その他
 - 8 その他
 - 9 閉 会

(事務局) 第1回江別市地域公共交通会議を開催させていただく。
はじめに、皆様へ委嘱状の交付を行う。

【委嘱状交付】

(事務局) 企画政策部長より挨拶申し上げます。

【挨拶】

(事務局) ただいま委嘱させていただいた委員をご紹介申し上げます。

【各委員紹介】

(事務局) 設置要綱第4条に基づき、構成員の互選により会長をお選びいただくが如何するか。

【委員より事務局一任の声】

(事務局) 会長には北海道大学の高野伸栄様をお願いしたいが如何か。

【異議なし】

(事務局) 会長よりご挨拶いただきたい。

(高野会長) **【挨拶】**

(事務局) 会長には次第の趣旨説明から議事をお願いしたい。

(高野会長) 趣旨説明についてお願いします。

(事務局) 江別市のより良い公共交通の実現に向けて、江別市公共交通検討会議において、今後の方向性や改善策について検討がなされ、その検討結果が報告書としてまとめられたところである。

この報告書の中では、今後の取り組むべき方向性と改善案という形でまとめられているが、特に方向性として、「バス交通の利用促進」「情報提供の推進」「交通機能の向上」という3つの方向性が示されている。

また、それぞれの方向性について、いくつかの具体的な改善案が挙げられているが、公共交通の利用促進に関することとして、モビリティ・マネジメントの実施やバス利用に関する説明会・出前講座の実施、情報提供の推進に関することとして、ホームページや既存コンテンツ等を活用や案内表示等の改善などが挙げら

れている。

また、交通機能の向上に関する事として、乗り継ぎ性の向上に向けたバスダイヤの見直しや実証運行に向けた調査などの案が出されたところである。

この報告書に示された方向性や改善案の実現のためには、さらに具体的な検討が必要となりますが、市としましては、この報告内容を踏まえ、関係機関などのご協力をいただきながら、さらに検討を進めるなど、具体化に向けた取り組みを進めていきたいと考えている。

市では、その具体化に向けた取り組みを進めていくため、専門性や事業性の観点から、バス事業に関する学識経験者や実務者等の必要な助言等をもとに検討する新たな体制である江別市地域公共交通会議をこのたび設置することとなった。

今年度からの市の新たな総合計画や都市計画マスタープランがスタートしたが、今後はその実現に向けて、公共交通に関しましては、特に駅を中心とした交通機能の向上に向けた検討を中心に進めていきたいと考えているので、その検討のためにも、この会議はたいへん重要なものと考えている。

この交通機能の向上のめざすべき目標としましては、効率的な路線の再編ということになるが、野幌駅の鉄道高架化に続き、この12月には駅北口の整備に伴い、バスの乗り入れがなされる場所がありますので、これに合わせ、バス路線においても利便性をより良くしていく必要があるものと考えている。

こうしたことから、この駅周辺整備に合わせたバス路線の再編については、重要なテーマと考えており、この会議においては優先的に検討を進めていきたいと考えている。

お手元には、この会議の設置要綱を配付させていただき、ご覧いただきたい。

まず、設置目的としては、より良い公共交通の実現に向けた取組等について、必要な助言等を受けるため設置するものである。

所掌事務としては、公共交通の利用促進、情報提供の推進、交通機能の向上、維持及び確保に関する事などである。

会議の構成員は、学識経験者、バス事業者、北海道運輸局、その他必要と認める者で、10人以内をもって組織するものである。任期は3年。

今回は、各関係機関等のご推薦をいただいた6名の方々に構成されているので、まず、この体制で協議を進めさせていただきたいと考えている。

当会議の趣旨など、概略をご説明申し上げたが、公共交通については、市のまちづくりを考えるうえでも、重要な問題であるので、何卒趣旨をご理解いただくとともに、活発なご議論をいただければ幸いと考えている。

説明については、以上です。

(高野会長) 検討会議の報告書、資料編を後で事務局から郵送いただきたい。
皆様からお気づきの点など順にご発言を頂戴できればと思う。

(宮前係長) 当社は市内3路線、札幌と結ぶ2路線、計5路線運行している。
江別市内の路線に関しては乗車人員が減少している。採算の取れていない路線

が非常に多い、大きな赤字を抱えた運行になっている状況。

過去からも度重なる便数の削減、春には一部路線廃止を含めた合理化をせざるを得ない状態にある。江別管内については非常に厳しい地域であるという認識がある。

利用促進は重要だが目覚ましい収支改善に至らない部分が多い。収支改善に向けた取り組みを進めていかなければならないエリアとなっている。

路線の再編、事業者に対する助成を含めて、どうやって路線を守っていくのかというところをもっとスピードアップで検討していただければと思っている。

我々も1民間バス事業者であり、多大な赤字を抱えながら何年も進めていくことができないのが実状であるので、もっとスピードアップで目覚ましい抜本的な改善ができるようなことを是非この公共交通会議で見出せればと思う。2年3年ということではなく、できることであれば来年でも再来年でも実のある内容を見出していければというのが我々の率直な意見である。

(高橋委員) 待ってられる状態ではないというのがバス事業者の本音である。バス事業者でもやっているが、乗車人員が増えていない結果となっている。

大胆な路線の再編等含めて検討していかなければ、江別市を運行している路線を維持できるような状態ではない。

維持確保に向けた取り組みとして支援のあり方の検討もあるが、今のところ江別市内、当社としては支援をいただかないで自前でやってきている。

12号線を運行しているのがメインになる路線であるが、江別市に完結するのではなくて、新札幌駅につなぐというのが弊社の路線の特徴になっている。

情報大学とか野幌運動公園だとかに向かっているところはよいのだが、朝晩の通勤で走る12号線の必要性がだんだんと薄れてきているのが実感している。江別市だけではなくて近隣市町村との連携がなければ弊社としては厳しいのではないかと考えている。3年も5年もというなかでは、このままの状態だというのは考えにくい状態であるので、もう少しスケジュール感を持ったなかで進めていかなないと間に合わなくなるということは危惧している。

(高野会長) 3年間の委嘱状になっている。スケジュール感はどういう具合に考えたらよろしいか。

(事務局) 今年度は社会実験調査ということで実証運行に向けた調査ということで範囲を絞り込んで住民意向調査やアンケート、OD調査をやって、来年度実証運行に結びつけていきたいと考えているが、まず必要なルートなど今年度検討して、来年度実証運行をやって、その実証運行の結果と併せて検討して本格運行の可能性を探るという形で概ね3年位必要ではないかということで3年で設定している。

今年度は調査、来年度実証運行、3年目で本格運行をめざす流れを今のところ考えている。

(高野会長) 改善案のモビリティ・マネジメント活動の利用促進、自治会への周知活動、ホームページなどでの情報提供、マップの改善、バス停の集約、案内看板の充実、この辺については、3年間待ったなしということなので、そういうのも実証運行と並行して初年度からやっていった方がよいのではないか。

(事務局) 出前講座、バス停の表示の改善はすでに取り組んでおり、やれるところから順次並行してやっていく考えである。

(高野会長) 是非その辺も議題に乗せていただいて検討して行ければと思う。

(高橋委員) 実証実験がメインとなっているようなスケジュール感だと調子悪い。既存の路線をどう確保することが大事なのか、それとも既存の路線を再編して新しい交通体系を作るのをめざすのかということになってくる。その辺は一緒に進めていかなければならないかと思う。

(井筒委員) 先月ダイヤ改正して要員不足とお客の減で路線の縮小と現状はそういうところ。同じところをJRバス、中央バスと一緒にやっていけるかという話になれば立ち向かえないところもあるので、ある程度のすみわけは必要ではないか。

野幌駅の北南の広場が完成したら半分バス停みたいな形にして、あそこに全部集まってきて、同じところを同じ時間帯で走っている部分については何とかしないといずれ共倒れになる。本当に必要なところはしっかり確保していく。

江別市だけの観点ではなく、札幌、南幌、栗山そういった部分もあるので、その中で江別の中をどうやって通って、江別の住民の人たちの利便性を図るかというのも大切。

(下段委員) 当別と江別を結んでいる1本の路線で位置づけが違うが、当別町内のコミュニティバスをやっている。

当別と江別の路線については、どんどん利用者が減っているので、それについては必要なものなので維持できればよいと考えている。それに向けては一緒に参加してうまくかみ合うようにしたい。

当別町内でコミュニティバスもやっているのだから、そちらの観点から意見が言えればよいと考えている。

(高野会長) 最近コミュニティバスの利用者はどのような傾向にあるか。

(下段委員) 現状維持している。減ってはいない。

(樋口委員) 江別市が中心になって市内交通のあり方について考えようというこ

とだと思うが、バス事業者に協力いただけるかが課題。

また今回、タクシー事業者は委員になっていないが、公共交通再編の際、デマンド等の選択肢もあることを考えると、委員に入れなくていいのか。

アンケートでは「運転できなくなったらバスを利用したい」と答える住民が多い。そのときにもバスはあると思っているのだろうが、将来のことを考えると、現在のバス利用も必要だ、ということも自治体から伝えなければならない。

（高野会長）今年度帯広で小学生向けのバスの交通環境教育の委員会があって、その中に十勝バスと拓殖バスを走らせている会社が2社入っているが、拓殖バスもちょっとお客さんが前年度比で増えている。

札幌圏にある江別ではICカードが利用されるようになったが、その辺は何か影響は出ているか。

（宮前係長）江別の場合は、JR系のキタカの利用割合がやや高い。ICカードを導入してからICカードが使われる方は多くなってきている。

札幌市内はサピカが圧倒的に多いが、江別、千歳といったところは、札幌市内に比べると多い。

（高橋委員）ここ何日かお客様から問い合わせがあり、中央バスも同じだが、バスカードを9月30日で廃止した。使用は今年度3月31日までできるが、バスカードの代わりになるものがないかとの電話が何件もあり、ICカードの説明をするが、なかなか電話では説明しきれない。買うまでが難しい。

（高野会長）去年の検討会議でもその話が出ていた。出前講座で町内会などで乗り方、買い方を含めて講座をやってほしいというニーズは出ていた。

この会議の中でも出前講座等含めて実証運行以外の部分についても議題として取り上げていただきたいと思う。

次は協議事項ということでバス交通に関する社会実験調査について願する。

（事務局）バス交通に関する社会実験調査ということで、市では、検討会議を踏まえて新たな総合計画、マスタープランの実現に向けて、駅を中心とした交通機能の向上に向けた検討を中心として進めていきたいと考えている。

今年度はバスの実証運行に向けた駅周辺部の公共交通の実態や意向などについて詳細な調査を行うために、アンケート調査やバス利用者に関する調査を予定している。

今年度については、この調査結果を踏まえて、実証運行の具体的な検討を進めていきたいと考えているので、専門家や実務の観点からご助言、ご協力をいただきたい。

調査の詳細については、一般社団法人北海道開発技術センターに業務をお願いしている関係から、調査研究部の吉田研究員より説明いただく。

(北海道開発技術センター) 具体的な政策課題、改善策の中の交通機能の向上に資する部分で、野幌駅の整備に併せてバスの利便性を図っていききたいところで、新たな路線の可能性を検討したいと考えている。

その中で実証運行を実施するための基礎調査という形で今年度各種調査を実施したいと考えている。

内容は、新しいバス路線の導入に関する計画の策定とバス路線に関するニーズ調査の2点。

新しいバス路線の導入に関する計画の策定については、実証運行を実施するにあたり、どういった体制で行うのか、どういったダイヤを組んで実施するか、どういったルートを通るのか、実証運行を実施する事業者はどのような形で決めるのかについて、皆さまの議論をもとに検討していきたい。

具体的には、運行主体、運行事業者、費用負担、実証運行に必要な期間、運行経路、ダイヤ、便数、運賃、使用車両の表示などに加えて、運行事業者をどのように選定するか。

資料3の新しいバス路線に関するニーズ調査のところで、アンケート調査、バスOD調査、住民意見交換会の開催を実施したいと考えている。

流れとしては、まずバスOD調査を実施したいと考えている。バスOD調査を実施した上で重点的に課題があろうというところに対してアンケート調査を実施し、そのアンケート調査の結果から、新しい実証運行のルートや便数などの仕様について検討していきたい。

そのアンケート調査を補足、補充するような形で住民の意見交換会を開催したい。

アンケート調査の具体的な部分については、調査票の案をご覧いただきながら説明させていただきたい。

調査項目としては、大きく属性と普段の移動実態、バス路線が新設された場合の利用意向、交通に関する意識となっている。

質問1は属性、質問2は普段の移動実態、質問3はバス路線が新設された場合の利用意向を調査。

このような設問の構成であると、単にあれば使いたいということで、利用したいと思うと回答する方がたくさんいるかと思うが、実際には車を保有していてバスにはほとんど乗らないということも考えられるので、そういった方々の意見をなるべく排除して適正な予測をしたいということで、質問4では車とか公共交通に関する意識を問うている設問。

最後に使いやすい公共交通の促進に向けてどのような意見があるかという自由回答となっている。

アンケート調査の実施規模については、バスOD調査を実施した上で決めたいと考えているが、1,000世帯程度を対象としたい。

バスOD調査の実施区域は、江別市の北側の地域で野幌駅へのアクセス手段として沿線住民に利用されているであろうと考えられる中央バスの江別錦町線と

江別 4 番通線を対象にバス OD 調査を実施したい。

こちらの地域は新栄台の地区などバス停までの距離がやや遠くて利用促進がは図れる可能性があるのではないかとということと、野幌駅へのアクセスを考えたときに乗車時間が極めて長くなり、他の交通手段とバッティングしている部分があると考えられるので、こちらの部分で実施したいと考えている。

実施時期は冬の雪が降る前に実施したいと考えている。

住民意見交換会は野幌駅へのアクセス性が難しいと考えられる錦町線と 4 番通線の沿線の住民とか、市立病院へのアクセスが難しいと考えられる駅南側地域を対象に意見交換会を実施したいと考えている。

これらの調査結果をもとに実証運行に向けた課題を抽出し、実証運行の計画の検討を実施したいと考えている。

(高野会長) アンケート調査はどこに撒くのか。

(北海道開発技術センター) 今回はバス OD 調査を事前に実施したいと考えており、朝の時間帯は野幌駅方面に利用される方が多いと考えているが、使われていない地区もあるのではないかとということで、そういった地区については既存の路線ではない別のニーズがあるのではないかと考えている。OD 調査の結果をもとに地域を検討したい。

2 路線 (江別錦町線、江別 4 番通線) の沿線を調査する。

(高野会長) 2 路線の利用実態はわかるが、それ以上のことはわかるか。バスを使っている人の利用実態しかわからないのではないか。

(宮前係長) 実証運行は OD 調査の時点で当社の 2 路線をターゲットにされているので、このエリアで実証運行をやるという方向性がある程度見えている感じがするが、ここにターゲットを絞ったのはどういうところにあるのか。

(事務局) 以前からも検討会議の中で南北間の移動や駅までのアクセスが課題として出されている部分があるが、今回は特に野幌駅については鉄道が高架化になって、道路整備や区画整理も進んできており、この 12 月には駅の北口が整備されて、JR バスや中央バスが乗り入れされ、駅とのアクセスが便利になるであろうということ、南側については、これから区画整理、駅前広場の整備をされ、新たな道路もこれから整備されていく予定となっているので、まず北側の利便性をもう少し向上させていくことを優先的に考えていった方がよいのではないか。

南側は道路整備などに併せて路線の再編なども検討していく流れになっていくのではないか。

現時点では駅の利便性が高まってくることと併せて、バス路線についてもアクセスをより良くしていくことにより、さらに利便性が高まるのではないかとということ、この錦町線と 4 番通線は北側のかなり広範囲の路線で、利用者数もかな

りある路線であるので、この辺を中心にやっていきたいと考えている。

(宮前係長) 錦町線と4番通線とそれらが共存するような形になるので、錦町線と4番通線を縫うように実証運行の路線が走るということになれば相応の影響があると思うが、それをどうケアしていただけるか。実証運行の結果を踏まえて、これらの路線を再編することになるのか、そこら辺を考えなくてはならない。

錦町線と4番通線の沿線で意向調査するのであれば、この沿線の方の意向しかわからない。路線が走っていない空白地帯でのアンケートとか、もう少し範囲を広げた方がよいのではないかという感じがする。

1,000世帯に配布して回収率はどれくらい想定しているか。

(北海道開発技術センター) 回収率は一般的にこのような調査では概ね3割と考えている。

(宮前係長) サンプル数として300というのはいかがか。

(北海道開発技術センター) 母数にもよるが300あれば十分ではないか。

(高野会長) 300あってもバスに乗っている人が普通は10%以下なので、実際バスに乗っている人は30しかいないかもしれない。

今の既存路線の沿線の人の意向を聞いてどうするのかというのが大きな疑問。沿線というのは100mとか200m沿線か。

(北海道開発技術センター) もっと広い範囲。

(高野会長) 野幌北の全般的な話をするのか。

(北海道開発技術センター) 野幌駅から近い部分にお住まいの方は野幌駅に直接アクセスされている方が多いと考えているので、基本的には徒歩、自転車の利用とバスの利用が距離的に考えられないところ。バスの利用が本来であれば使われるであろうという地域。

(高野会長) 野幌駅500m圏内くらいは外すということか。

(北海道開発技術センター) そのとおり。

(高野会長) 基本的には野幌北の全般か。

(北海道開発技術センター) 基本的には新栄台とか見晴台といった部分が中心になってくるのではないか。

その辺りから1つ隣の地区くらいがポイントになってくる地域ではないかと考えている。

(高野会長) 実証運行の費用の問題とか既存路線の影響については、どのように考えているか。

(事務局) 今年度の調査の中で、バス会社のデータをもとにどの程度影響あるかということも考慮しなければならないと考えている。

(高野会長) 実証運行の経費は、市の方で貸切バス事業のようにするのか。

(事務局) 委託にするのか補助にするのか、その辺は検討している。
いずれにしても財源はこちらでということになる。

(高野会長) バス事業者が儲かると思えばやるという話にもなるのではないか。

(宮前係長) 既存の2路線が野幌駅と見晴台、新栄台を結んでいるので、2点間を結ぶ実証運行の路線ができるとすれば、どう考えても影響があるので、目減り分の穴埋めを考えていただかなければ、ただでさえ維持が厳しい中での話であるので、それをどう維持していただけるのかが気になる部分である。

(高野会長) 野幌駅北口が整備されて、そこをバスのサービスを良くしようという発想は賛同いただけると思う。その時にどこを調査するかで既存2路線だけの沿線だけだと拾いきれないと思うので、野幌北口周辺というか、そこでバスを改善することによって利用される人を少し幅広に調査した方が良いのではないか。

(事務局) 基本的に考えているのは既存路線に乗っているお客様の付け替えではなくて、新規需要をどうやって開拓できるのかということに大きな目的がある。

実証運行は短期間なので、既存路線への影響はさほど大きくは出ないと考えているが、新規のお客様をどうやったら開拓できるかを調べるのが大きな部分になってくると考えている。そのことについてのご意見も伺いたい。

どの範囲を対象にするかということで、新栄台、見晴台という町名で網をかけると便利なところ不便なところ含めて網がかかるので、どこに具体的にかかるのか考えていきたい。

江別の感覚でいくと駅から1キロ以内はほぼバスに乗らないと思う。結構皆さん徒歩で通っている。実際にバス需要を喚起できるのは多分3番通より北側ではないか、想像だが。その辺もよく考えてやっていきたい。

(高野会長) 新規需要を見極めようということでは、既存路線の周辺しかアンケート調査しないというやり方が、それでは新規路線は拾い上げられないだろうと

いうことだと思う。簡単に言えばバス不便地域を中心に調査していただいた方がよいのではないか。

(樋口委員) 通院となると人によっては診療科目によって病院が違う可能性がある。そうするとこの段階で両方でチェックが入る可能性がある。その後の回答の仕方が変わってくると思う。真面目に考えた人はより回答しづらくなる。

(高野会長) 最も頻繁に行かれる通院先をお一つ想定してお答えくださいということでしょうね。

想定としては、かなりの人が車で行動していると思う。

誰に答えてもらうか。世帯で1人ということか。それとも公共交通を世帯の中で一番使う人が答えるのか。

(北海道開発技術センター) 基本的には公共交通を使っている方と自動車を使っている方も勿論だが、住民基本台帳を使って合わせた形で調査票を入れられることができると思う。

(高野会長) 世帯全員か。

(北海道開発技術センター) そのとおり。

(高野会長) この会議は次回いつ開く予定か。

(事務局) アンケートの中間報告を取りまとめ次第開催したい。

11月後半から12月にかけて想定している。

(高野会長) 今の争点としては、調査をどこの範囲に撒くかということと調査項目についての修正をした上で調査をお願いしたいと思う。調査をやる前にメール等で皆さんに審議いただきたいと思う。

(高橋委員)

今のスケジュール感からいくと無理ではないか。OD調査をやった結果でアンケートをどこに撒くか決めるという流れだが、11月からアンケートを配るイメージになる。

(高野会長) OD調査はどのようにやるか。

(北海道開発技術センター) 乗り込みでやる。

(高橋委員) 何日間位でやるのか。

(北海道開発技術センター) 1日で実施する。

(宮前係長) この路線で言うと大体降りる人は駅となる。

(高野会長) 野幌駅若しくは途中で降りる人はわずかしかない。OD 調査やっても、そういう結果しか出てこない。

(高橋委員) 属性は何をいうのか。

(北海道開発技術センター) 年齢または性別というところが属性となっている。

(高野会長) ODは具体的な地名か。

(北海道開発技術センター) バス停となる。

(高野会長) それはアンケート調査やるときの参考になるか。どこで乗ったかということと降りるのはほとんどJR。

(宮前係長) 駅に向かっては駅で降りる人がほとんど。帰りは駅で乗る人がほとんど。

(高橋委員) それが多いのか女性が多いのかを見て、その属性が含まれる一般家庭に配る趣旨か。

(北海道開発技術センター) 新規というところを考えるとすれば、目的地として野幌駅のアクセスや野幌駅周辺の施設というの也被えられる。

(高野会長) バス停名でしか聞かないのか。

(北海道開発技術センター) バス停名で把握する。

(高橋委員) 聞き取りはしないで、このバス停で乗った人数、どこで降りた人数だけで、それが何歳位の女性は何人とかというレベルか。

(北海道開発技術センター) 調査員が乗車して、ここからここまでというのを把握したい。

(高野会長) それはアンケート調査にどういう意味があるのかという感じがする。

(高橋委員) そのお金があるなら、もう少しアンケートを配った方が効果があるような気がする。

(高野会長) 去年検討会でも調査を行った。

(事務局) あれは全市で行った。

(高野会長) 野幌駅だけ取り出すこともできる。あれでそれに近いものも取れるのではないか。

OD やってもあまり意味がないような気がする。空白地帯中心に調査票を撒いた方が意味がありそうだ。

(北海道開発技術センター) 新しい路線を引くというのも将来的にあるかもしれないが、既存路線の再編ということ考えたときには、どこを変えた方がよいのかという課題を把握することも重要なのではないかということでの OD 調査である。

(高野会長) バス停間の OD 調査だと今の路線でしか O も D もないので再編も何もないのではないか。本当はどこに行きたいけど、しょうがなくこのバス停で降りているというのが見えない。

どこに行きたいかという地名とか具体的な施設名を聞くのであれば少し意味があるかもしれない。

OD 調査を含めて仕切り直しした方がよいのではないか。

(事務局) あずからしていただいて、次回の会議では遅いので、何らかの方法で皆さんにこのままやるのか変更するのか含めて調整したい。

(高野会長) 中央バスの路線を再編しようという話をこちらで勝手にやってよいのかという議論もあると思う。

(高橋委員) スケジュール的には年度内に報告書を作成するところは移動しないか。

(事務局) そのとおり。

(高野会長) 年次としては3年間というか今年度内にすべて終わるわけではない。

(高橋委員) 実証実験をやる前提条件が決まっていなくても、何台規模位ができそうな予算があるのかどうか。1台バス走らせるのにどれくらいの経費かかる、それを事業者ある程度出すか、お客さんに負担を求めるのか、全部賄えるのかとい

うところがある。10台出してくれといわれても無理。1台でも今厳しいレベルと思う。

その辺によって、こういうアンケートを取って必要だといったときに通勤時間帯に走らせられるのか。日中走るのに駅短絡でルートとしてよいのか、病院を回ったり市役所を回ったりするルートがよいのかはアンケートを見ないとわからないという話だが、この時間で決められるのか不安がある。

1台でやるものなのか2台でやるものなのか。

(事務局) お金や期間の問題がある。

(高橋委員) 予算があって決められた金額があってそれで賄える分、誰が負担するのかというところもある。それでも10台の規模ではないと思う。1~3台位だと思う。それによって走れるルート、距離がおのずと決まってくると思う。

(高野会長) 住民意見交換会ではいろいろなニーズが出てくると思う。そこをうまく整理するとどういうルートがよいとかヒントが出てくるような感じがする。この交換会には希望すれば参加してもよいとかそういう話になるのか。

(事務局) どういう手法でやるか自治会とかいろいろあると思うので調整したい。

(宮前係長) 意見交換会も実証運行の路線を作るための意見交換会か。

(事務局) そういう考えである。

(宮前係長) 意見交換会は南側の地域でもやるという話であるが、あまり実証運行の路線に想定にはないエリアではないか。意見交換はするけれども走る可能性があまりないのであれば、それもどうなのかという感じがある。

(高野会長) 交換会は町内会単位でやるのか。

(事務局) 町内会単位で複数になるかもしれない。

(高橋委員) 意見交換会はどのレベルで出るのか。

(事務局) 基本的にはコンサルと事務局で対応させていただく。

(高野会長) 調査については再検討いただいて、調査の前までにどういう形か皆さんにもう一度意思確認していただいた上で調査していただくということでしょうか。

【異議なし】

(高野会長) その他ありますか。

(事務局) 特になし。

(高野会長) 皆様から何かあるか。

【特になし】

(高野会長) 以上で終了する。